学校番号	1011

令和８年度　芸術科

教科	芸術	科目	(学)陶芸入門Ｂ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

陶芸では陶土づくりから立体造形まで、土の特性を把握しながら作品を制作します。
陶土の表現は、材質によった表現の工夫を思考する力を養います。
陶器の歴史を知ることで生活の中にある伝統工芸を意識し、探求する機会をつくります。
また、実際に使えるものを作ることでものづくりの楽しさと、使う喜びが生まれます。

2　学習の到達目標

（１）土の特性の理解を深め、表現によった手法を自ら模索し、創意工夫と表現の美しさについて主体的に制作できる。
（２）伝統工芸の歴史とこれからを知り、工芸における機能的な美しさを感受し、伝統工芸の在り方と価値、その意味を考え、工芸のこれからの在り方を考えられる。また工芸作品の機能性と美しさを観察し、日常の中の美を感受できる感性を高める。
（３）主体的に陶芸の文化や歴史を知り、幅広い活動に取り組もうとしている。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・土の特性の理解を深め、表現によった手法を自ら模索し、創意工夫と表現の美しさについて主体的に制作できるようにする。	・伝統工芸の歴史とこれからを知り、工芸における機能的な美しさを感受し、伝統工芸の在り方と価値、その意味を考え、工芸のこれからの在り方を考えられるようにする。 ・工芸作品の機能性と美しさを観察し、日常の中の美を感受できる感性を高めることをめざしている。	・主体的に陶芸の文化や歴史を知り、幅広い活動に取り組もうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	土の再生	陶土の再生を班に分かれて行う。	a:土の再生の手順について理解している。 b:再生の必要性を理解しようとし、自分の言葉でまとめられている。 c:土の再生についての手順と必要性について、土の特徴について理解しようとしている。	プリント	プリント	活動記録
	円筒制作	紐つくりの技法で 円筒(鉛筆立て、もしくはコップ)を制作する。	a:紐つくりの手順について理解しようとしている。 b:参考作品から思考し、創造性をもって制作に取り組もうとしている。 c:紐つくりをどのように理解しているか、またどのように活用することができると考えている。	プリント 作品	アイデア スケッチ 作品	活動記録
2	抹茶碗制作	玉つくりの技法で お抹茶碗を制作する。	a:玉つくりの手順について理解しようとしている。 b: 参考作品から思考し、創造性をもって制作に取り組もうとしている。 c: 玉つくりをどのように理解しているか、またどのように活用することができると考えている。	プリント 作品	アイデア スケッチ 作品	活動記録
	陶芸レポート	陶芸についての基礎を調べ、レポートにまとめる。	a:焼き物が出来上がるまでの手順と道具の名称を理解しようとしている。 b：記述式問題において、焼き物についての理解を自分の言葉でまとめられている。 c:焼き物が出来上がるまでの手順と道具の名称を理解し、今後の制作への活かし方を意欲的に学ぼうとしている。	レポート	レポート	活動記録

3	角皿制作	たたらづくりの技法で 角皿を制作する。	a:たたらづくりの手順について理解しようとしているか。 b:参考作品から思考し、創造性をもって制作に取り組もうとしているか。 c:たたらづくりを積極的に行おうとしている。	プリント 作品	アイデア スケッチ 作品	活動記録
	電動ろくろ	電動ろくろで器を制作する。	a:電動ろくろの手順について理解しようとしている。 b: 参考作品から思考し、創造性をもって制作に取り組もうとしている。 c:電動ろくろの特性を意識しようとしている。	プリント 作品	アイデア スケッチ 作品	活動記録
	自由制作	今までの技法を使って 自由制作をする。	a:今までに習った技法を理解し複合的に組み合わせて制作しようとしているか。 b: 参考作品から思考し、創造性をもって制作に取り組もうとしているか。 c:複合的な制作のバランスを意識し、ものづくりを理解しようとしている。	プリント 作品	アイデア スケッチ 作品	活動記録

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度